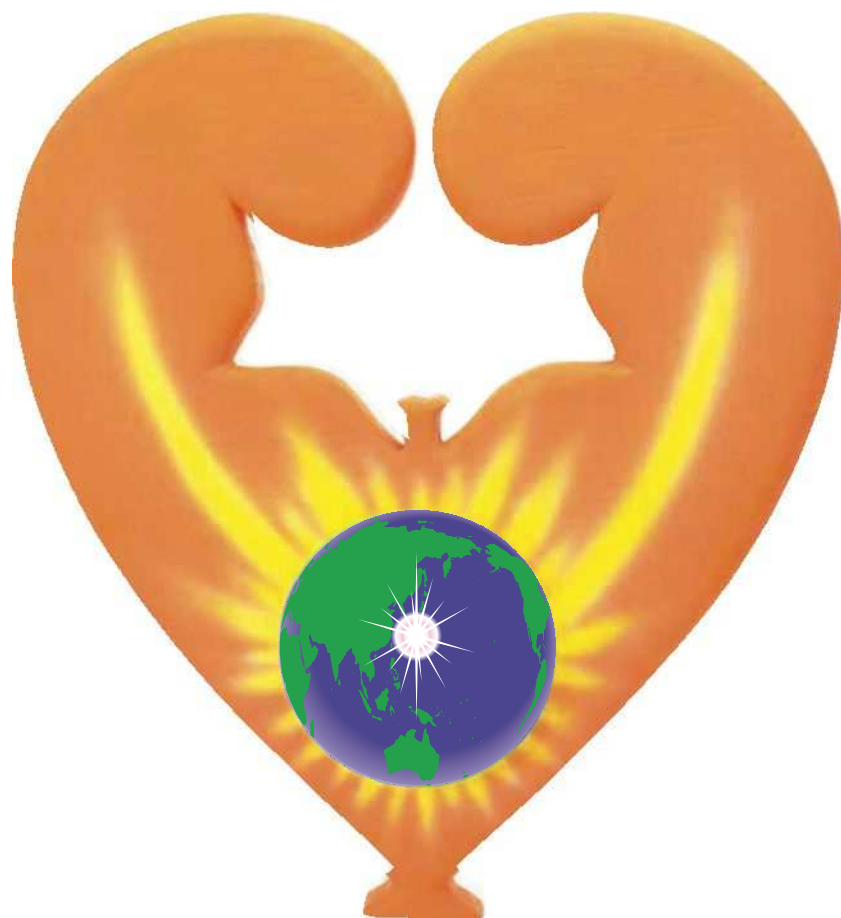




青森県基本計画

「青森新時代」
への架け橋



Ablaze

【アブレイズ】

青森

「*Ablaze*」には、「燃えて」、「輝いて」といった意味があります。

薬学生の皆さんが卒業後に青森県に帰って、薬剤師として仕事に燃え、輝いて欲しいという願いを込めて平成12年から発行しています。

今回、これまで発行したものを、わかりやすくまとめたので是非ご覧ください。



薬学生の皆さん 青森県内で薬剤師 が不足して困って いることをご存知 ですか。

薬学を学んでいる皆さんは、
薬剤師になってどんなことをし
たいと考えていますか。ベッド
サイドでの患者さんへの服薬
指導ですか。それとも新薬を
開発して人類を病気から救うこ
とでしょうか。薬局で地域の
皆さんと密着した薬剤師にな
りたいと思っている方もいるで
しょうね。

国民の健康のためにとても重
要な役割を担っている薬剤師。
その薬剤師が青森県内で不
足して困っていることを皆さん
はご存知でしたか。

薬学生の皆さんに卒業後に
青森県に帰ってきていただい
て、薬剤師不足を解消するた
め、青森県と一般社団法人青
森県薬剤師会では、色々な取
組を行っています。

その一つが、青森県内の就
職情報を提供する「*Ablaze*」
の発行です。

「*Ablaze*」には、「燃えて」、
「輝いて」といった意味があ
ります。皆さんが薬剤師にな
って仕事に燃え、輝いて欲しい、
という思いを込めてこの名前を
つけました。

青森県内には、生き生きと
楽しく働いている薬剤師がたく
さんいます。

あなたを必要としている生ま
れ育った青森で、私たちと一
緒に県民の皆さんの健康向上
のお手伝いをしてみませんか。

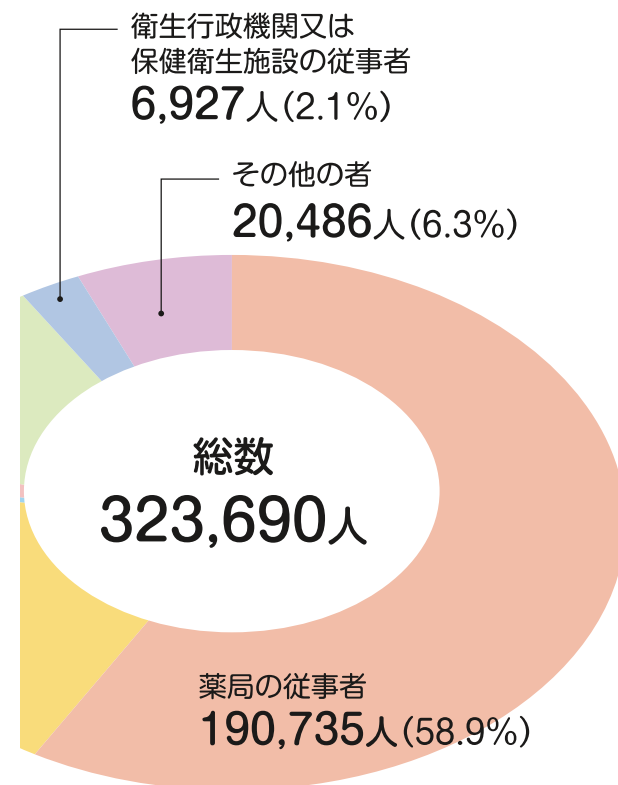
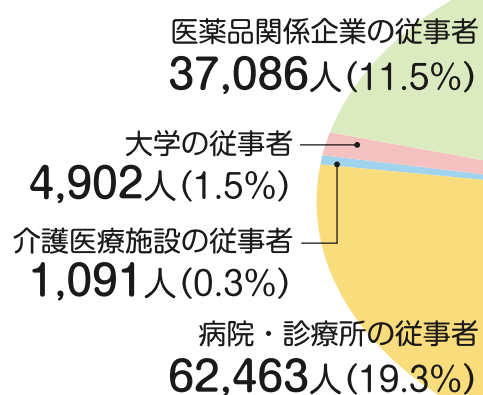
01 アブレイズ目的

薬剤師の卵たちへ。 青森県UIJターン就職。

業務の種別にみた 全国の薬剤師数

令和4年現在
厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

主に従事している業務の種別をみる
と、「薬局の従事者」は190,735人（総
数の58.9%）で、前回に比べ1,753人、
「病院・診療所の従事者」は62,463人
（19.3%）で、860人増加している。
「大学の従事者」は4,902人で、前回に
比べ209人減少し、「医薬品関係企業の
従事者」は37,086人で、1,958人減少し、
「衛生行政機関又は保健衛生施設の従事
者」は6,927人で151人増加している。

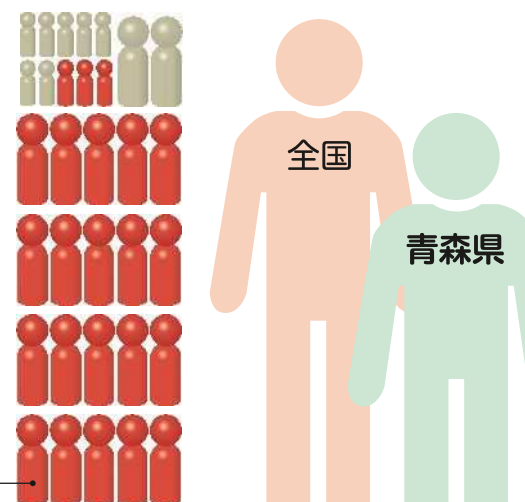


人口10万人当たりの 薬剤師数

令和4年現在
厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

総数 259.1人

薬局・医療施設の従事者
202.6人



輝くキミの情熱を感じる。

青森県にUIJターンして!!

先輩たちから学生のみなさんへ、地元就職へのとおきアドバイス。

吉岡 俊さん 青森市内調剤薬局勤務

私は新潟出身で、地元の薬科大に進みましたが事情があり退学しました。薬剤師になる夢をどうしても諦めきれず青森の大学に編入し、現在保険薬局に勤務しています。4月から4年目になります。

地元を離れることは不安もありましたが、巡り合った青森の方々とのご縁や家族の後押しで、青森での就職を決めました。

日本一難しい方言と言われている津軽弁。働き始めは苦労しましたが、最近ようやくスムーズなコミュニケーションができるようになりました。それも、患者さんが親しみを込めて接してくれているからで青森の良さを肌で感じています。なかなか経験できるものではなく、毎日が新鮮でとても楽しいです。

また、短命県での医療の窓口として、セルフメディケーションをサポートしていく力を習得することも、薬剤師として青森で経験できることではないかと感じています。

柿本 拓二さん むつ市内調剤薬局勤務

私は埼玉の大学を卒業後、地元であるむつ市に戻り就職しました。薬局で働くならば地元に戻って地元のためにと思ったからです。

勤務先はクリニックモールに併設しており、患者数も多く、様々な処方を経験し幅広い知識を得られることが決め手でした。地元の言葉を気にせず使える、むしろ方言のほうが、会話が弾むということも地元就職ならではのです。

薬剤師となって10年以上経ちますが、薬局の業務の他にも学校薬剤師や介護認定審査会等、徐々に地域に出て活動の幅を広げています。

下北地域は県内でも薬剤師が少ない地域です。今では県内にも薬学部があり、徐々に地元で就職する人が増えていますが、それでも青森県の薬剤師数は全国でも下位のままです。現在地元を出て就職している人も、いつかは地元で働きたいと思い帰ってくることを期待しています。



薬学生も知らない かもしれない薬剤師のしごと！

薬剤師が不足して困っている青森県に、少しでも多くの薬学生が戻ってきて薬剤師として活躍して欲しいという思いを込めてこの情報紙を発行しています。

皆さんは、どんな薬剤師になりたいと考えていますか。大学の実習や薬剤師の職場見学でいろいろな薬剤師に接したと思いますが、ひょっとしたら、今までに知らなかった薬剤師の仕事がまだたくさんあるかもしれません。

ここでは、薬局薬剤師の仕事です。



02 薬剤師のお仕事①



地域と薬局薬剤師の関わり

令和4年12月末現在、厚生労働省の調査では、全国の薬剤師の約59%が薬局勤務で最も多くなっています。

今回ご紹介する仕事は、すべての薬局薬剤師に当てはまるものではありませんが、地域と関わり合いながら、地域医療の中でとても重要な役割を果たしています。

地域の皆さん

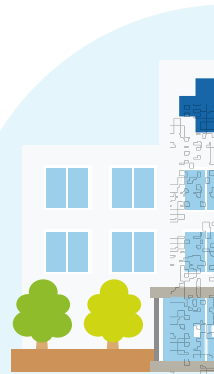


在宅患者の皆さん

医師の指示に基づき、通院困難等で在宅療養をしている患者さんや認知機能の低下や高齢の単身生活者で服薬の見守り者がいない患者さんのお宅に訪問します。住み慣れた自宅で最期まで過ごすことができるよう、医療・介護の専門職との「多職種連携」を軸として患者さんと向き合っています。

- ★おくすりの他にも必要であれば衛生材料などをお届けします。
- ★薬剤服用歴（「カルテ」のようなものです）を基にお話をしっかりお聴きしたうえで、
 - 服薬状況や保管状況・残薬の有無の確認
 - 効果や副作用等を確認し、必要に応じて医師への処方変更の提案を含めたフィードバック
 - 飲み込む力によって散剤（粉薬）や液剤（シロップ等）等、より飲みやすい剤型への変更
 - 飲み方に不安がある場合は服用時点ごとにまとめる「一包化」や「おくすりカレンダー」の導入
 - 他職種との情報の共有 など

お届けすること以外はいつもと同じ内容ですが、薬局を飛び出すことでカウンターの中では知る事が出来ない「生活の場」があり、患者さんの暮らしを感じる事が出来ます。「生活の場」を知り患者さんやご家族と向き合い、「薬」以外の問題についてもみんなと一緒に考え試行錯誤を繰り返しながら、住み慣れたご自宅でその人らしく、最期まで過ごしてもらえるように取り組んでいます。その中で患者さんやご家族など様々な人との関わりを通じて多くのことを学び、薬剤師としてだけでなく人としても成長して行く事が出来ます。



病院



学校



薬局



薬局



青森県版お薬手帳の配布

東日本大震災では「お薬手帳」の有用性が再確認されました。医師会や歯科医師会、看護協会と連携し「お薬手帳」の普及啓発を行っています。



学校保健安全法では、学校には医師、歯科医師と共に薬剤師を置くことが義務づけられており、学校薬剤師会が組織され、教育委員会と連携を保ちながら児童生徒の健康教育に寄与しています。子供達に薬を供給するのが仕事だと思われがちですが、学校の施設の“健康診断”をして子供達の快適な教育環境を守るのが学校薬剤師の仕事です。具体的には、教室の照度・騒音、空気、飲料水検査、プール水検査、ダニアレルゲン検査、アトピー性皮膚炎などの原因となる、揮発性有機化合物（VOC）検査、給食施設検査、さらには薬の正しい使い方教室、薬物乱用防止教室など、学校薬剤師に求められる仕事は実に多彩です。

大学で学んだ環境衛生、微生物、公衆衛生などのいわゆる衛生化学分野の学問をフルに活用して、学校環境衛生向上に寄与しています。



健康介護まちかど相談薬局

青森県薬剤師会が主催する研修会を受講した薬剤師が在籍している薬局で、①認知症早期発見②介護予防③禁煙サポート④心の悩み相談（ゲートキーパー）⑤血圧測定等健康相談などに関する地域の皆さまの疑問や質問に対応しています。詳しくは青森県薬剤師会HPをご覧ください。青森県で始めた事業が全国に拡大し、隣県でも独自のステッカーを作成しています。『健康サポート薬局』や『地域連携薬局』の礎になった事業かもしれません。



『健康サポート薬局』や『地域連携薬局』の礎になった事業かもしれません。

専門医療機関連携薬局

一定の要件を満たし各都道府県知事から認定された薬局で、専門的な薬学管理が必要な患者さんに対して、他の医療提供施設（病院や患者さんのご自宅近くの薬局など）との密な連携を行いつつ、より高度な薬学管理や高い専門性が求められる特殊な薬剤に対応することができる薬局です。

健康サポート薬局・地域連携薬局



「健康サポート薬局」は厚生労働大臣が定める基準をクリアした薬局で、お薬の継続的な管理、24時間対応、在宅対応など基本的な「かかりつけ薬局」機能は全て備えたうえで、病気になる前の未病・予防の段階から地域の皆さまの健康を支援する薬局です。日常生活での健康管理

のアドバイスやセルフメディケーションのお手伝いを行い、必要があれば医療機関をご紹介します。また、地域で健康イベントを開催し健康相談にも対応しています。

「地域連携薬局」は、一定の要件を満たし各都道府県知事から認定された薬局で、地域の医療機関や他の薬局と適切に連携し、病院（診療）と施設・自宅（介護）の間をつなぐ役割を担う薬局です。通院中の服薬フォローアップは勿論、患者さまの入退院時の情報共有、在宅訪問などを通じて、地域の中での薬物治療をサポートします。

病気になる前、未病や予防の段階で健康増進を支援するのが「健康サポート薬局」。病気になった後も住み慣れた街で安心して治療を続けられるよう支えるのが「地域連携薬局」です。相互に役割を補いながら、地域の皆さまの生活を支援しています。



県民の健康を守る 薬剤師

薬剤師が不足して困っている青森県に、多くの皆さんが戻ってきて薬剤師として活躍して欲しいという思いでこの情報紙「*Ablaze*」を発行しています。この「*Ablaze*」では、薬剤師のいろんな分野でのしごとを紹介していきます。

現場の病院薬剤師のお話を載せております。

03 薬剤師のお仕事②



病院での薬剤師の仕事

今回ご紹介する仕事は、病院に勤務する薬剤師です。病院薬剤師は医師や看護師などといっしょに医療チームの一員として、臨床の場で活躍することが多くなります。

病棟活動



このように薬剤師は医療チームの一員として、患者さんの薬物療法を支援しており、アドヒアランス^{※1}の継続に努めるとともに、副作用防止や医薬品の適正使用のための提言を行っています。

※1 アドヒアランス…患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること

今、薬剤師は調剤室を飛び出して、病棟へとその活動の場を広げています。

入院患者さんの薬歴を管理し、その情報に基づき、薬の副作用や相互作用を検討した上で、薬剤師が、直接患者さんに服薬指導をしています。もちろん、事前に医師や看護師と、指導内容について協議したり、カンファレンス（症例検討会）や回診へ参加し、他の医療従事者と意見を交えています。



がん化学療法の関わり

近年、がん化学療法は入院だけでなく外来治療においても行われるようになりました。がん治療と日々の生活の両立が可能となったことで、その件数は年々増加傾向を示しています。また、本業務では外来治療センターや薬剤管理室と連携して、がん化学療法のレジメン管理、処方せん鑑査や薬歴管理、無菌調製などをシステム化することで、患者さまにより安全で効果的な治療を提供できるよう努めています。

抗がん剤の中には、その特殊な薬理作用から細胞毒性を有するものがあります。そのため、薬剤の日常的な被曝により、それが蓄積することで、医療従事者の健康に悪影響を及ぼすことが危惧されます。薬剤部内の無菌室で、薬剤師により注射用抗がん剤のミキシングを行うことにより、医療従事者への被曝を最小限に抑えています。



医薬品管理

医薬品の管理には、保管管理業務と在庫管理業務があります。保管管理業務としては、医薬品の品質確保のための適正保管のほか、麻薬・向精神薬・毒薬・劇薬等特に注意を必要とする医薬品の保管管理、注射剤・血液製剤の払出し、さらに治験薬^{※2}の管理等、その範囲は薬局内だけでなく病棟も含め病院全体に及んでいます。

また、医薬品の発注・検収等購入の管理から、入庫・出庫に至る在庫管理も、数量的な立場からの管理業務といえます。

※2 治験薬…臨床試験の対象となる医薬品



調剤業務

医師が処方した「処方せん」に基づき、間違いなく調剤することは当然ですが、調剤する前の「監査」として、薬の組み合わせに問題はないか、分量は適正か、患者さんの年齢や、妊娠の有無などをチェックすることがとても重要です。また、これまでは、外来患者さんの調剤が中心でしたが、院外処方せんの発行の増加により、入院患者さん中心となり、注射も処方せんにより、患者さん別に調剤するなど変化してきています。

DI業務とTDM

DI^{※3}業務とは、一言でいうと“医薬品情報”を扱う業務です。例えば、添付文書の改訂情報や緊急安全情報（ドクターレター）、副作用・相互作用に関する情報、また、新規購入医薬品情報や医薬品の回収情報などの提供を行います。

TDM^{※4}とは、薬物血中濃度モニタリングのことで、血液中の薬の濃度を測定・解析し、投与時間や投与量を医師にフィードバックしています。

※3 DI…Drug information：医薬品情報

※4 TDM…Therapeutic drug monitoring：薬物血中濃度モニタリング

DMAT

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略して「DMAT（ディーマツ）」と呼ばれています。医師、看護師、業務調整員（薬剤師などの医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。当院では30名超の隊員がおり、薬剤師は2名です。





薬学生も知らない かもしれない 薬剤師の仕事！

薬剤師が不足して困っている青森県に、少しでも多くの薬学生が戻ってきて薬剤師として活躍して欲しいという思いを込めてこの情報紙を発行しています。

皆さんは、どんな薬剤師になりたいと考えていますか。大学の実習や薬剤師の職場見学でいろいろな薬剤師に接したと思いますが、ひょっとしたら、今までに知らなかった薬剤師の仕事がまだたくさんあるかもしれません。

ただ、県内に医薬品の製造業があまり多くないのでご紹介できないのが残念です。

04 薬剤師のお仕事③

令和4年12月現在、厚生労働省の調査では、全国の薬剤師の58.9%が薬局勤務で一番多く、病院・診療所勤務が19.3%、医薬品製造業等の医薬品関係企業（卸含む）が11.5%と続きます。
薬剤師は、この他にも、いろいろなお仕事をしています。

地域での活動



各地での講演等

薬剤師の職能は非常に幅広く、薬学から始まり公衆衛生、食品衛生、生活衛生などさまざまな分野を大学で学びます。

これは社会へ出てからもさまざまな形で発揮できる可能性があります。地域における講演会などもその一つです。市町村や各種団体からの要請により行う「薬の正しい使い方」の講演などは、薬に対する正しい理解を深め、副作用の不安を取り除くことになり、薬剤師の信頼を得ることにもなります。

また、化学物質や健康食品など生活を取り巻く環境には情報が溢れ、整理がつかない中で、その整理役としての講演要請も少なくはありません。

私たち薬剤師への期待は薬だけに限らず無限の可能性を秘めています。

行政での仕事



行政関係においては、各種法令に基づく業務を行っています。

- (1) 医薬品や毒物劇物等の適正な取扱いについて、製造所、薬局、薬店等に対する監視指導業務
- (2) 病院、診療所等の医療機関に対する監視指導業務
- (3) 食品の安全確保のため、飲食店や食品の製造・販売施設などの営業施設に対する監視指導業務、食品に関する相談業務
- (4) 理容院、美容院、クリーニング店、旅館、公衆浴場、興行場など生活衛生営業施設の開設または営業許可に関する事務及び指導並びに衛生教育業務
- (5) 水道施設や飲用井戸、温泉、建築物衛生に関する相談及び指導業務
- (6) 大気や水質等の環境測定、微生物や食品等の検査、廃棄物の適正処理についての指導業務 など



卸での仕事



卸売販売業で取り扱う商品は、医療用医薬品（約15,000品目）、一般用医薬品（約13,000品目）、診断用医薬品、動物用医薬品、医療機器、衛生材料、医療用食品、医薬部外品、毒物、劇物、薬品、危険物、高圧ガス、システム機器、福祉用具など、品目も非常に多彩です。これらの商品を医療機関等に迅速・確実に供給しています。

青森県地域防災計画に沿って緊急災害用備蓄医薬品を保管管理しており、大規模地震等の災害時に対応しています。他にも新型コロナウイルス感染症の際は検査キットや治療薬を、昨今の医薬品不足に対してもできるだけ供給が偏らないよう流通確保に努め、住民の生命を守る役割を果たしています。

薬機法により卸売販売業の営業所毎に「管理薬剤師」を設置することが規定されています。つまり、卸売業を営む上で管理を担う重要な責任があり、必要不可欠な存在となっています。薬剤師法や薬機法、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、毒物及び劇物取締法の他にも消防法、高圧ガス保安法等様々な法規制に従って業務を行っています。D I 業務やM S（販売担当者）に対する教育研修も担当しており、旬な情報がM Sを通じて医療機関等へ浸透することで、薬剤師としての任務が果たされます。

「偽薬」が日本市場に流通していない理由の一つには、薬剤師が日々適正な品質管理を行い、『安心・安全・安定供給』に努めているからです。

各種資格

薬剤師は、各種の資格を得ることができます。
活躍分野がさらに広がり、新しい世界がひらけます。

○毒物劇物取扱責任者

毒物劇物の製造所や販売店において、毒物劇物取扱責任者に任用できます。

○医薬品等製造販売業者の総括製造販売責任者

医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器製造販売業の総括製造販売責任者になることができます。

○医薬品等製造業の責任技術者

医薬品・医薬部外品・化粧品・医療機器の製造所の責任技術者に任用できます。

○その他の資格

- ・放射線取扱主任者任用資格（放射性医薬品に関わる場合）
- ・公害防止管理者の無試験による資格認定（講習受講義務あり）
- ・甲種危険物取扱者受験資格 など

薬剤師の一日の仕事の流れ

朝

社内への情報伝達

日中

- 倉庫内の温度管理や使用期限など、品質管理体制の確認
- 麻薬等、施錠保管が必要な商品の保管管理と販売業務の確認
- 製薬会社や行政等からのD I 情報の整理
- 医療機関からの問合せの対応や取引先の取得許可、免許、登録業種等の確認
- M Sから報告された安全管理情報や市販直後調査の内容確認
- 最終在庫の確認とM Sの教育研修のための資料準備



もっと知りたい！ 薬剤師の仕事！！

「*Ablaze*」では薬剤師の仕事をシリーズで紹介してきましたが、ここでは、薬学生の皆さんからいただいたアンケートで質問のあったことへの回答を掲載しました。また、青森県内に就職した3人の先輩の声を掲載しています。

皆さんのこれからの人生や就職の参考になることを願い、また、これを読んだ皆さんが「あなたを必要としている生まれ育った青森で、私たちと一緒に青森県民の健康向上のお手伝いをしてくれること」を期待しています！



青森に就職して

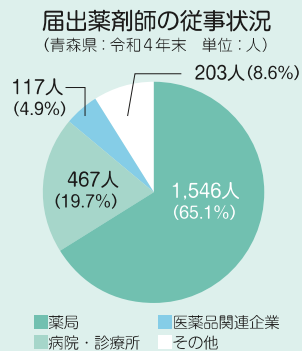
05 薬剤師に関するQ&A あれこれ

Q1 青森県内では、薬剤師はどんな職場でどれくらいの人働いていますか。

令和4年12月31日現在の届出薬剤師数2,373人のうち、薬局従事者が1,546人（65.1%）、病院診療所の従事者が467人（19.7%）、医薬品関連企業（医薬品販売業含む）の従事者が117人（4.9%）などとなっています。

近年の医薬分業の進展に伴い、薬局従事者は増加傾向にあります。

〔令和4年「医師・歯科医師・薬剤師統計」(厚生労働省)〕



Q2 青森県内は薬剤師が不足していると聞きましたが本当ですか。

令和4年12月31日現在の薬局及び病院診療所に従事する薬剤師数は、人口10万対では、全国平均で202.6人となっています。これを都道府県別にみると、徳島県が244.0人、東京都が235.7人、兵庫県が236.6人の順に多くなっていますが、青森県は167.2人で全国の45番目と少ない人数となっています。

〔令和4年「医師・歯科医師・薬剤師統計」(厚生労働省)〕

一方で、令和5年度における処方箋受取率（医薬分業率）は、全国平均80.3%に対し青森県は90.7%と全国47都道府県中2番目に高い数字となっています。

Q3 これからの薬剤師はどうあるべきか教えてください。

医薬品技術及び医療技術の高度化・複雑化、保健医療を取り巻く環境の変化などに対応した、薬学に関する高度な知識が求められてきております。また、昨今は医薬分業の進展や病棟業務の充実等、薬剤師が医療の担い手として役割を果たすことが求められ、これらの責務を果たすためには、必要な資質を有する薬剤師でなければなりません。

平成18年4月から薬学教育6年制が実施され、また、近年、認定薬剤師や専門薬剤師を育成する制度が整備され、特定の医療分野等においてより高度な知識や技量、経験を持つ薬剤師が誕生しています。このような背景から、免許取得後も、晴れて薬剤師となり社会で活躍するためには日頃からの切磋琢磨が必要となります。このため、各地で開催される生涯教育研修会への参画や研修認定薬剤師制度（<http://www.jpec.or.jp/>）への積極的な参加が求められております。

加藤 香穂(病院勤務)

私は地元である青森県で病院薬剤師として働いています。実際に働いてみると、地元だからこそ通じる言葉、コミュニケーション方法があると分かりました。患者さんとの距離が近くなると、色々な相談もしてもらえるようになり信頼されていると感じます。病院では主に調剤業務・抗がん剤調製・病棟業務・緩和ケアチーム業務を行っています。その中でも緩和ケアチームでは、医師や看護師、臨床心理士、リハビリなど他の医療スタッフと毎日回診を行い、痛みのある患者さんの支援を行っています。チーム医療を行うなかで、多職種が専門性を発揮し、多面的に支援していることを実感しています。ときには薬剤師として、患者さんのより良い薬物治療のために医師へ処方提案することもあり、難しさと同時にやりがいを感じる仕事だと思っています。患者さんの苦痛を取り除けて笑顔が見られたときに、頑張った良かったと思う瞬間かもしれません。これからの青森県の医療の担い手となることを考えていただけると嬉しいです。

A \\ 皆さんからいただいた質問にお答えします //

Q4 地方では薬剤師職能向上のための研修会開催などが不足しているのではないかと不安です。実施状況はどうなのでしょうか教えてください。

青森県薬剤師会は県内3地区薬剤師会（青森・八戸・弘前）と3支部（西北五・上十三・むつ下北）で運営しています。各地区それぞれが活発に研修会を開催しており、所属地区以外への参加も可能です。また、毎年青森県薬剤師会学術大会を開催しており、会員だけではなく薬学生からの発表もあります。昨今WEB研修の整備も進んでおり、移動時間等気にすることなく全国の研修会を受けることができます。

学生の皆さんが参加できる研修も沢山あります。ぜひ青森県薬剤師会へお問い合わせください。



Q5 薬局見学させてもらえる施設はありませんか。

県内各地で見学可能です。施設ごとに様々な特色があり日程や人数等、ご相談に応じますのでお気軽に青森県薬剤師会へお問い合わせください。



Q6 近い将来、薬剤師が過剰となるというのは本当ですか。青森県の薬剤師の需給の予測について教えてください。

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会によると、薬剤師の総数は、概ね今後10年間は、需要と供給は同程度で推移しますが、将来的には、供給が需要を上回り、薬剤師が過剰になると予測されています。

しかしながら薬剤師の業務内容が調査時と大きく変わり「対物から対人に」大きくシフトしている中、業務量は増加しており予想より過剰とならないといった結果も昨今出ています。

また、青森県は薬局・医療施設に従事する人口10万対薬剤師数が167.2人（全国45位）であることや、処方箋受取率（医薬分業率）が全国で2番目（令和5年度）ということを見ると、全国一薬剤師が不足している地域と考えられ、過剰には程遠い状況です。

青森県で皆さんと共に、薬剤師として活動できるのを楽しみにしています。

伊丸岡 健太(保健所勤務)

私が薬剤師として、青森県職員の道を選んだのは、生まれ育った地元への貢献がしたい、また、薬事について大枠となる制度や仕組みに関わりたかったことがきっかけでした。

現在勤務している保健所では、規制医薬品に関することや薬事に関することについて、具体的には薬局等の医薬品販売業の許可・監視指導をはじめ、薬物乱用防止や献血推進に関することなど幅広く業務を行っています。なかでも薬局等への監視指導や調査では、関連法規をもとにして、筋道を立てた論理的な考え方や相手方に寄り添った考え方も求められます。

また他にも、保健所内では、感染症や医務に関する業務、食品衛生や宿泊施設に関する業務などにも薬剤師が関わっており、病院や薬局ではあまり体験することがないような業務連携も体験できます。取り扱う分野が多岐にわたる分、関連法規の勉強は日々欠かせませんが、色々な分野の知識を習得したい、業務を経験したい、色々なことに挑戦したいと思う方や行政に興味がある方は是非県職員として、青森県の公衆衛生の将来を支えていきませんか？

木村 諒(病院勤務)

病院での薬剤師の業務は、錠剤のピッキングや散薬、水剤を量る調剤業務、抗がん剤を調製するミキシング業務、入院している患者さんにお薬について説明する病棟業務など多岐にわたります。それらの業務を行う傍らでAST（抗菌薬適正使用支援チーム）やTDM業務にも従事しています。ASTでは患者さんの背景や検査値の確認、抗菌薬による副作用の有無や適切な投与量であるかを薬剤師としての視点でしっかり確認した上でカンファレンスに参加し医師等へ情報提供することで、より良い抗菌薬治療が行われることへ貢献しています。

また、TDM業務では測定した血中濃度や患者さんの背景、疾患などを考慮して患者さん1人1人にとって最適な用法・用量を設計することへ貢献しています。以上のように業務が幅広いので大変ですが、その分やりがいも感じることができます。青森県で働いてみたい、青森県へ貢献したいとお思いの方へおすすめできるお仕事ではないかと思っています。

薬剤師の新たな社会貢献

「かかりつけ薬剤師」として、薬による治療のこと以外にも健康や介護に関することなどに豊富な知識と経験を持ち、患者さんや生活者のニーズに沿った相談に応じています。また、地域で多職種が連携し、定期的に継続して行われている「地域ケア会議」などへの参加や行政や医療・介護団体等が主催する住民への研修会等への参加、医療に係る地域活動（薬と健康の週間・薬物乱用防止活動・注射針の回収等）への参

画、行政や医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力のもとで実施している休日夜間薬局としての対応や派遣、委嘱を受けて行う学校薬剤師の業務など、医療に係る地域活動を多岐にわたり行っています。

「かかりつけ薬局」として、「健康サポート薬局」「地域連携薬局」「専門医療機関連携薬局」の他に「健康介護まちかど相談薬局」の制度を通じて地域に根付いた活動を積極的にしています。

Information

青森県内での薬剤師の就職について
あなたの疑問にわかりやすく・親切に・お答えします。

青森県 医療薬務課 薬務指導グループ

TEL.017-722-1111（内線6254） FAX.017-734-8089
E-mail:yakumu@pref.aomori.lg.jp
電話受付時間 8:30～17:15（ただし、土・日・祝祭日を除く）

（一社）青森県薬剤師会 薬事情報センター

TEL.017-742-8822 FAX.017-743-7075
E-mail:aoyaku@aoyaku.or.jp
電話受付時間 9:00～17:00（ただし、土・日・祝祭日を除く）

青森県薬剤師会の情報を今すぐ入手したいあなたに…

「青森県薬剤師会」ホームページ
<http://www.aoyaku.or.jp/>

現場の薬剤師の情報が満載です。もちろん、薬剤師に関することなら、ここで最新情報をキャッチできます。



LINEからの情報発信も行っています。

青森県と一般社団法人青森県薬剤師会では、就職のあっせんは行っておりませんが、
求職のお問い合わせは大学の就職担当課かハローワークまで！



青森県基本計画
「青森新時代」
への架け橋

青森県 健康医療福祉部
医療薬務課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号
TEL.017-734-9289 FAX.017-734-8089

（一社）青森県薬剤師会

〒030-0961 青森市浪打一丁目16番17号
TEL.017-742-8821 FAX.017-743-4452